

2020年度 原子力に関する世論調査 調査結果のお知らせ（要約版）

報告書（2021年2月発行）

はじめに・目次

第1章 概要

第2章 質問票の設計

第3章 サンプルと調査実施

第4章 調査結果の分析

第5章 考察

第6章 委員会の設置と調査内容の検討

付 録 個別訪問留置調査（全国）クロス集計結果

財団ホームページ（下記URL）で報告書データを公開中

https://www.jaero.or.jp/data/01jigyou/tyousakenkyu_top.html

詳しくは WEB で

世論調査 原子力文化

検索

2021年3月
日本原子力文化財団

調査の目的、調査手法、実査時期

2006年度から同じ手法で継続的に実施している全国規模の調査 原子力に対する世論の経年変化を観察できる他に類を見ない調査

調査の目的

原子力に対する世論は、事故や災害などの出来事があるごとに大きく変動する傾向がある。そのため、本調査では、全国規模の世論調査を**定点的、経年的**に実施し、**原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を正確に把握する**ことを目的として実施している。また、調査結果を基に、さまざまなステークホルダーが活用することができる情報発信方法を検討している。

調査手法

定点調査

- ・調査地域 全国
- ・調査対象者 15～79歳男女個人
- ・サンプリング 1,200人／住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
- ・標本数の配分 200地点（1地点6サンプル）を地域・市郡規模別の各層に比例配分
- ・調査手法 オムニバス調査／個別訪問留置調査

実査時期

経年変化

- | | |
|--------------|---------------|
| 第1回：2007年1月 | 第8回：2014年11月 |
| 第2回：2007年10月 | 第9回：2015年10月 |
| 第3回：2008年10月 | 第10回：2016年10月 |
| 第4回：2010年9月 | 第11回：2017年10月 |
| 第5回：2011年11月 | 第12回：2018年10月 |
| 第6回：2012年11月 | 第13回：2019年10月 |
| 第7回：2013年12月 | 第14回：2020年10月 |

**2020年度
14回目**
2006年度から
継続的に実施

【委員メンバー（敬称略・50音順）】

- ・飯本 武志 東京大学 環境安全本部 教授
- ・遠藤 博則 東京都墨田区立桜堤中学校 副校長
- ・川上 和久 麗澤大学 教授
- ・高嶋 隆太 東京理科大学 理工学部 経営工学科 教授

【本件に関する問い合わせ先】

日本原子力文化財団 企画部（担当：坂井、大滝）
東京都港区芝浦2-3-31 5F
mail：survey@jaero.or.jp（■を@に変えてください）
TEL：03-6891-1572 FAX：03-6891-1575

1. 調査概要（2020年度の調査項目と継続性）

<原子力>

問1	14回
問2	14回
問3	13回（1回）
問4	4回
問5	4回
問6	4回
問7	12回
問8	7回
問9-1	4回（2回）
問9-2	2回
問10	7回

原子力に対するイメージ
放射線に対するイメージ
原子力やエネルギー、放射線に対する関心
エネルギー・環境の情報保有量
原子力の情報保有量
放射線の情報保有量
今後利用すべきエネルギーに対する考え
今後の原子力発電の利用に対する考え
原子力発電の再稼働に対する考え
安全対策の強化の情報保有量、考え
原子力・放射線のベネフィット・リスク認知

ベネフィット認知：原子力発電、核燃料サイクル・プルサーマル
経済性（国／電気料金）、地球温暖化、放射線利用
リスク認知：原子力発電（安全確保、地震、防災体制）
放射線（汚染／将来世代への影響／食品）

高レベル放射性廃棄物の情報保有量
高レベル放射性廃棄物の処分に対する考え
事業者／専門家／自治体／国に対する信頼
原子力等の情報源とその信頼性
人や組織の発言の獲得経験とその信頼性
利用経験／利用希望
利用しない理由
自由記述（原子力／情報発信に対する考え）

※カッコ内：異なる形式での回数

<生活意識や情報収集>

問1	1回 NEW
問2	7回
問3	2回
問4	1回 NEW

エネルギー・環境に対する意識
普段の生活意識や行動に関する考え（社会性）
情報獲得（インターネット）とその信頼性
講演会で聞きたいジャンル（一般的興味）

青：世論の雰囲気把握する項目

緑：情報の受け手の意識を把握する項目

赤：世論の態度※を把握する項目

※ものごとに直面した際、自分の感情や情報を使って
自身の行動を決める要因

橙：原子力の社会的受容性を把握する項目

黒：知識の普及活動を検討するための項目

「継続性」と「時勢に合わせた改定」を
バランスよく組み合わせた質問設計

長年、継続している質問
→経年変化を観察

時勢に合わせて調査項目を改定
→情勢の変化に合わせてながら
原子力の世論の動向を把握

1. 調査概要（クロス集計軸-2020年度）

単純集計

×

クロス集計軸

【属性】

- **性別**
- **年代**
- 職業
- 世帯年収
- 子どもの有無
- 女性－仕事の有無

【地域】

- 地域（10地域）
- 都市規模
- 原子力発電所
隣接（30km圏内）／非隣接

【情報の受け手の意識別（4段階）】

- エネルギー・原子力・放射線に対する関心
高い層／中程度の層／低い層／ない層
- 情報保有量
 - ① エネルギー・環境
 - ② **原子力**
 - ③ 放射線
 - ④ 原子力発電所の安全対策の強化
 - ⑤ 高レベル放射性廃棄物の処分
- 多い層／中程度の層／少ない層／ない層

【態度別】

- 今後利用すべきエネルギーに対する考え
- **今後の原子力発電の利用に対する考え**

【意識・行動別】

- エネルギー・環境意識
- 社会性
※ 社会性とは、主に自治体や地域社会などの「社会」に対してどの程度、関わりを持つようとしているかを示したもの。
- インターネット情報獲得

「性別」、「年代」、「原子力の情報保有量」、
「原子力利用の考え」のクロス集計結果を中心に分析

||

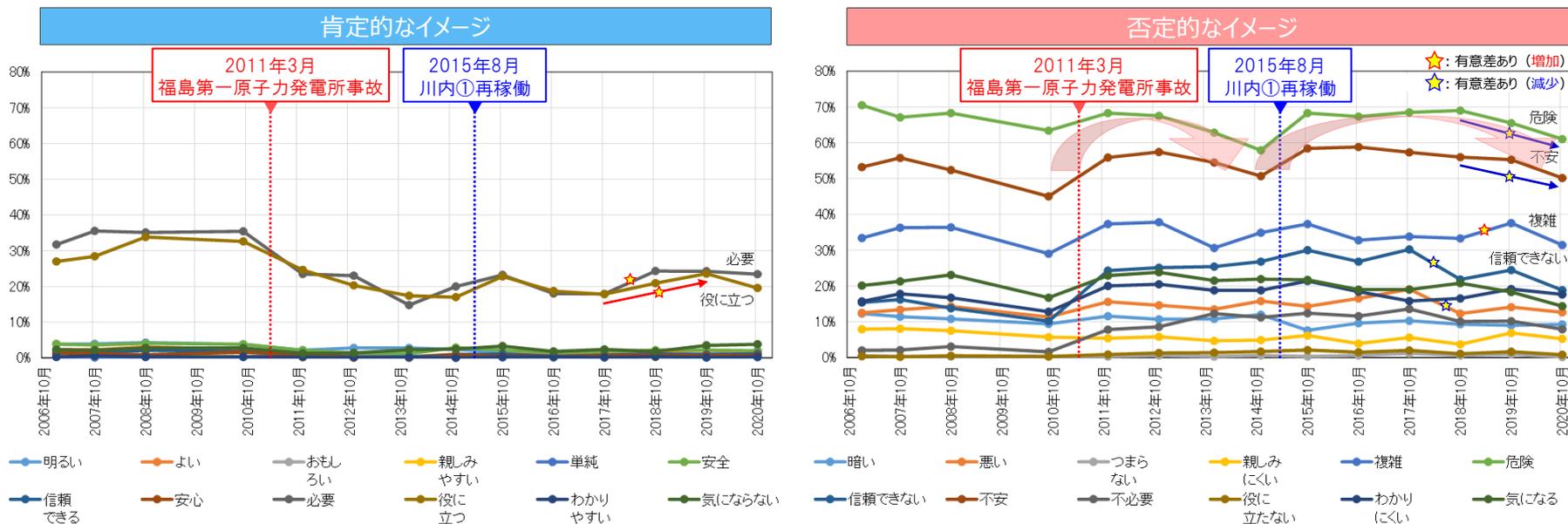
原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を把握

2. 世論の雰囲気

2-1. 原子力に対するイメージ (2006～2020年度)

2-1. 原子力に対するイメージ (2006～2020年度)

問1 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



- 原子力に対するイメージは、福島第一原子力発電所の事故前から「否定的なイメージ」のポイントが高く、その中でも、「危険」、「不安」は、事故の前後に関わらず、高い割合を示している
- 否定的なイメージの変動に注目：影響を与えるうる出来事およびニュースで伝えられる情報量によって変動したと推測
 ニュースで伝えられる以下の情報量が増えたことで、「危険」、「不安」のポイントが増加
 その後、徐々にニュースで伝えられる情報量が減少したことにとともに、「危険」、「不安」のポイントが減少したと推測
 【2010～2014年度】の変動：2011年の福島第一原子力発電所の事故
 【2014～2020年度】の変動：2015年の川内原子力発電所 1号機の再稼働（新規制基準で初）

3. 情報の受け手の意識

3-1. エネルギーや原子力、放射線に対する関心 (2006～2020年度)

3-2. 情報保有量

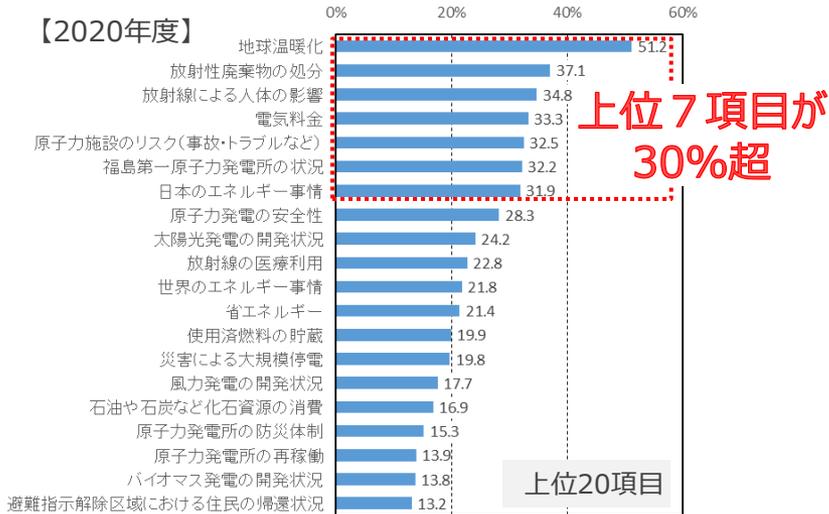
(エネルギー・環境、原子力、放射線、安全対策、高レベル放射性廃棄物 / 2020年度)

3-3. 情報保有量 (エネルギー・環境、原子力、放射線 / 2017～2020年度)

3-1. エネルギーや原子力、放射線に対する関心 (2006~2020年度)

問3 原子力やエネルギー、放射線の分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

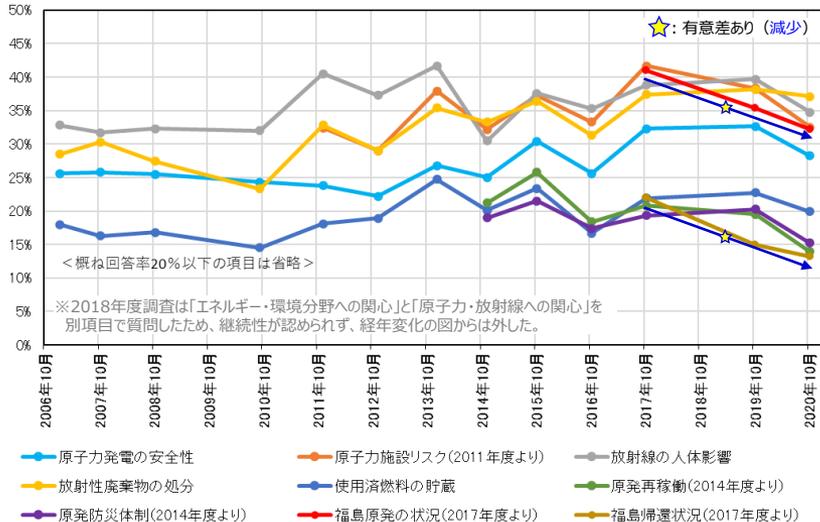
【2020年度】



【2020年度】上位7項目の年代別

	全体とのポイント差							
	+10	+5	-5	-10				
全体	1,200	614	445	417	400	390	386	383
	100.0	51.2	37.1	34.8	33.3	32.5	32.2	31.9
10代	74	37	16	17	7	7	8	7
	100.0	50.0	21.6	23.0	9.5	9.5	10.8	9.5
20代	148	64	29	37	42	30	30	28
	100.0	43.2	19.6	25.0	28.4	20.3	20.3	18.9
30代	187	82	48	58	74	39	44	51
	100.0	43.9	25.7	31.0	39.6	20.9	23.5	27.3
40代	221	91	71	79	77	67	59	61
	100.0	41.2	32.1	35.7	34.8	30.3	26.7	27.6
50代	186	111	76	62	73	73	72	74
	100.0	59.7	40.9	33.3	39.2	39.2	38.7	39.8
60代	222	135	124	92	73	104	102	92
	100.0	60.8	55.9	41.4	32.9	46.8	45.9	41.4
70代	162	94	81	72	54	70	71	70
	100.0	58.0	50.0	44.4	33.3	43.2	43.8	43.2

【2006~2020年度】原子力関連の項目の経年変化



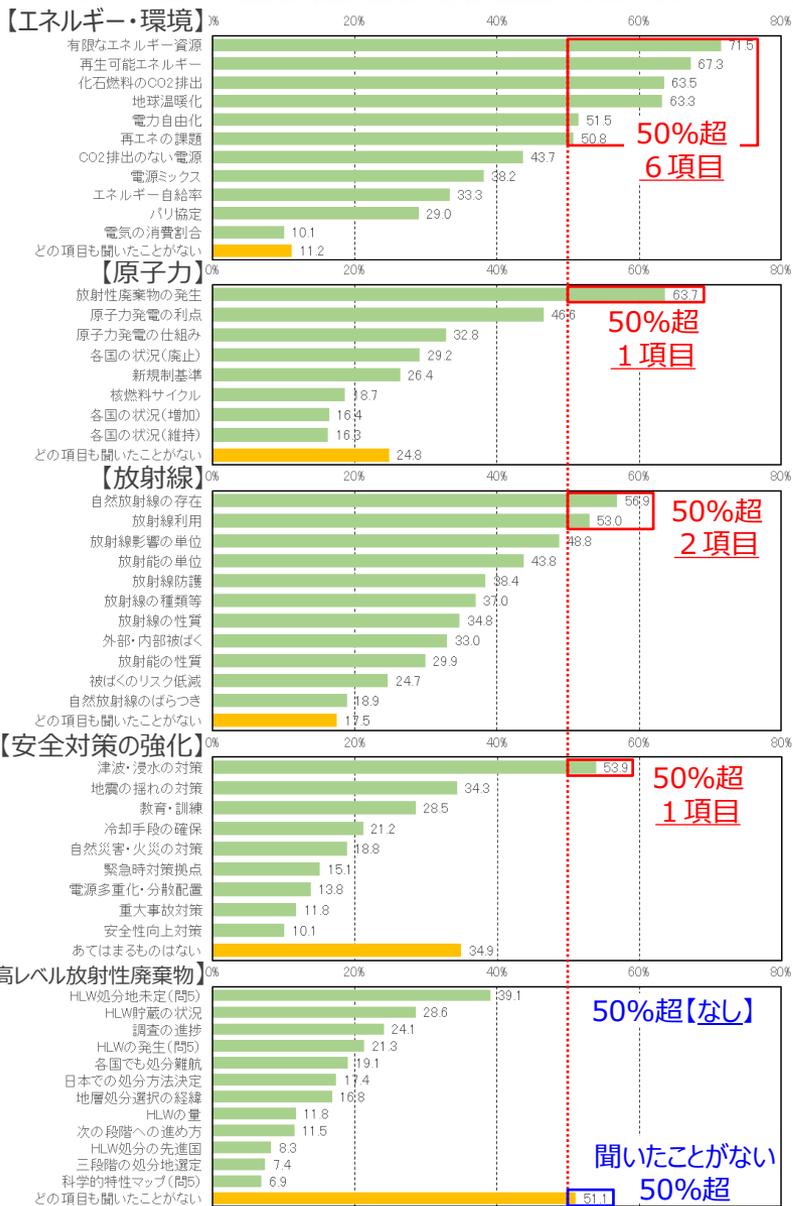
【年代による差】

- 電気料金は、30代・50代の関心が全体よりもやや高い
- 全体的に10-30代は関心が低く、50代以上が関心が高い

【経年変化】

- 2019年度→2020年度の変動：原子力関連に対する関心低下
2020年は原子力関連の情報との接点が少なかったためと推測
- 2017年度→2020年度の変動：福島事故関連に対する関心低下
「福島第一原子力発電所の状況」と「福島住民の帰還状況」が減少
2011年の事故からの時間の経過やニュースで伝えられる情報量の減少によるものと考えられる

3-2. 情報保有量 (エネルギー・環境、原子力、放射線、安全対策、高レベル放射性廃棄物 / 2020年度)



問 あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

【2020年度】ひとまず、50%超の項目を確認すると

➢ 「エネルギー・環境」は、11項目のうち6項目が50%超
他の分野より情報保有量が高い分野

➢ 「原子力」、「放射線」、「原子力発電所の安全対策の強化」は、
50%を超える項目は1～2項目（以下参照）

- (原子力)
 - ・原子力発電を利用すると、放射能を持った廃棄物が発生する（63.7%）
- (放射線)
 - ・私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている（56.9%）
 - ・放射線は医療・工業・農業等さまざまな分野で利用されている（53.0%）
- (原子力発電所の安全対策の強化)
 - ・津波・浸水への対策（写真：防波壁、水密扉）（53.9%）

多角的な視点に基づいて判断してもらうためには、原子力情報に対する
情報保有量を高める取り組みを強化していくことが望まれる

➢ 「高レベル放射性廃棄物」は情報保有量が低い
50%を超える項目が一つもなく、逆に、どの項目も聞いたことがないの割合が
50%を超えている
「高レベル放射性廃棄物」については、国民全体が自分事として考えるべき
問題であるため、いかに情報を届けるかを検討する最優先事項

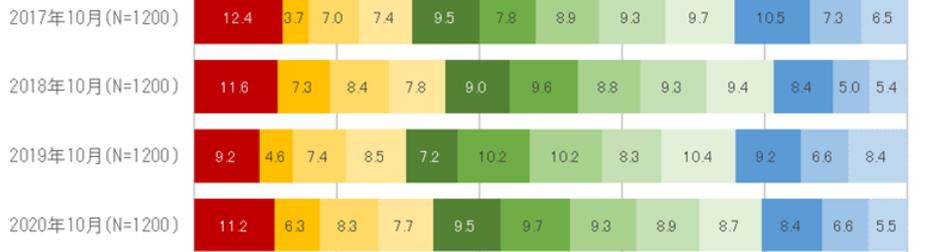
3-3. 情報保有量 (エネルギー・環境、原子力、放射線 / 2017~2020年度)

問 あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

「エネルギー・環境」、「原子力」、「放射線」の情報保有量については、
 選択数によって情報保有量の【多】・【中】・【少】・【無】の4つの層に区分した

【多】情報保有量が多い層 : 選択数の合計が9~11個
 【中】情報保有量が中程度の層 : 選択数の合計が4~8個
 【少】情報保有量が少ない層 : 選択数の合計が1~3個
 【無】情報保有量がない層 : 「あてはまるものはない」を選択

【エネルギー・環境】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



【原子力】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



【放射線】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 0個
- 1個
- 2個
- 3個
- 4個
- 5個
- 6個
- 7個
- 8個
- 9個
- 10個
- 11個

【経年変化】

➤ 原子力の情報保有量

2017→2020で【少】の割合が増加 (33.4%→38.7%)

2017→2020で【中】の割合が減少 (32.3%→27.7%)

このことから、4年間で原子力の情報保有量が減少傾向
 個別項目では、「新規規制基準」、「各国の状況 (廃止)」の
 情報保有量が減少した

➤ 放射線の情報保有量

2017→2020で情報保有量の減少傾向が見受けられる
 個別の項目では、「放射線影響」の情報保有量が減少

- ・放射線影響の単位 (シーベルト)
- ・外部・内部被ばく
- ・被ばくのリスク低減 (食品中の放射性物質の規制)

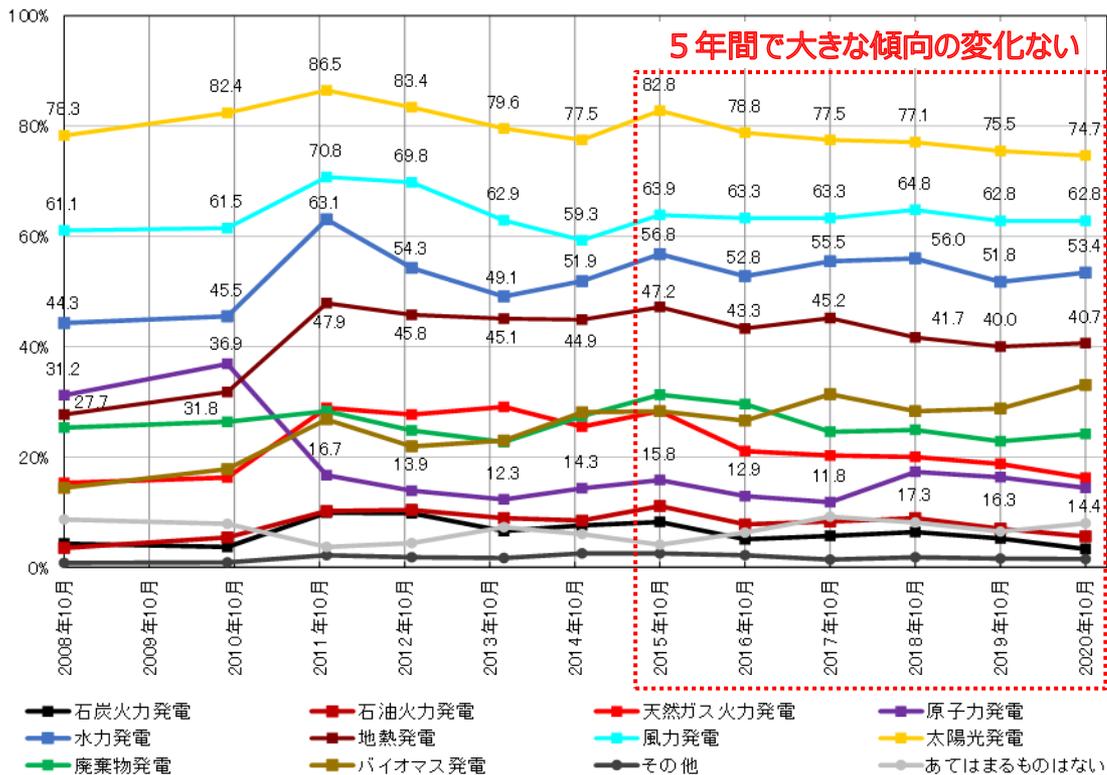
**原子力と放射線の情報保有量は
 2017→2020で減少傾向**

4. 原子力に関する世論の動向

- 4-1. 今後、利用すべきエネルギーに対する考え (2008～2020年度)
- 4-2. 今後の原子力発電の利用に対する考え (2014～2020年度)
- 4-3. 原子力発電の再稼働に対する考え (2017～2020年度)
- 4-4. 原子力発電所の安全対策に対する考え (2019～2020年度)
- 4-5. 高レベル放射性廃棄物の処分に対する考え (2017～2020年度)

4-1. 今後、利用すべきエネルギーに対する考え (2008~2020年度)

問7 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(○はいくつでも)



2011年度以降、上位項目に変化なし

- ① 太陽光発電 ※過去最低値
- ② 風力発電
- ③ 水力発電
- ④ 地熱発電

【2020年度】

	全体	性別	
		男性	女性
全体(N)	1200	592	608
石炭火力発電	3.3	4.9	1.8
石油火力発電	5.6	8.3	3.0
天然ガス火力発電	16.3	21.5	11.2
原子力発電	14.4	21.1	7.9
水力発電	53.4	54.6	52.3
地熱発電	40.7	46.5	35.0
風力発電	62.8	62.8	62.8
太陽光発電	74.7	73.3	76.0
廃棄物発電	24.2	25.5	22.9
バイオマス発電	33.1	36.5	29.8
その他	1.5	1.7	1.3
あてはまるものはない	8.0	7.3	8.7

(%)

【経年変化】 直近の5年間で大きな傾向の変化は見られない

- 2017年度以降、バイオマス発電が5番目を維持している
- 天然ガス火力は、東日本大震災後に増加したが、2016年度から徐々に減少傾向
- 原子力発電は、2011年の事故後から低い選択率となり、概ね15%前後を推移
- 石炭火力、石油火力は、低い選択率のまま

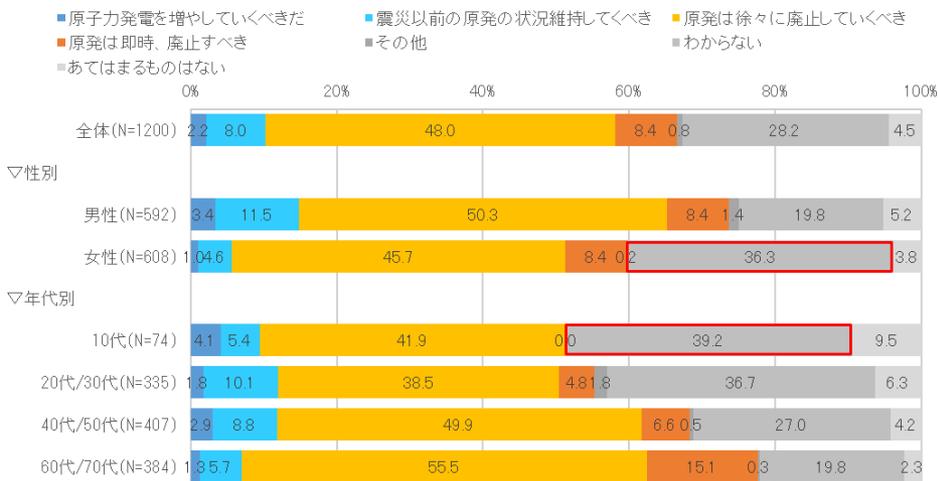
【性別による差】

「天然ガス火力発電」、「原子力発電」、
「地熱発電」は、男性のポイントの方が高い傾向
(男性と女性の回答に10ポイント以上の差)

4-2. 今後の原子力発電の利用に対する考え (2014~2020年度)

問8 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

【2020年度】



最も大きい意見は、「しばらく利用するが、徐々に廃止していくべき」の50%程度、次いで「わからない」が30%程度と続く
「即時、廃止すべきだ」と「増加+維持」は約10%と同程度

【性別による差】

➢ 女性：「わからない」のポイントが高い (36.3%)

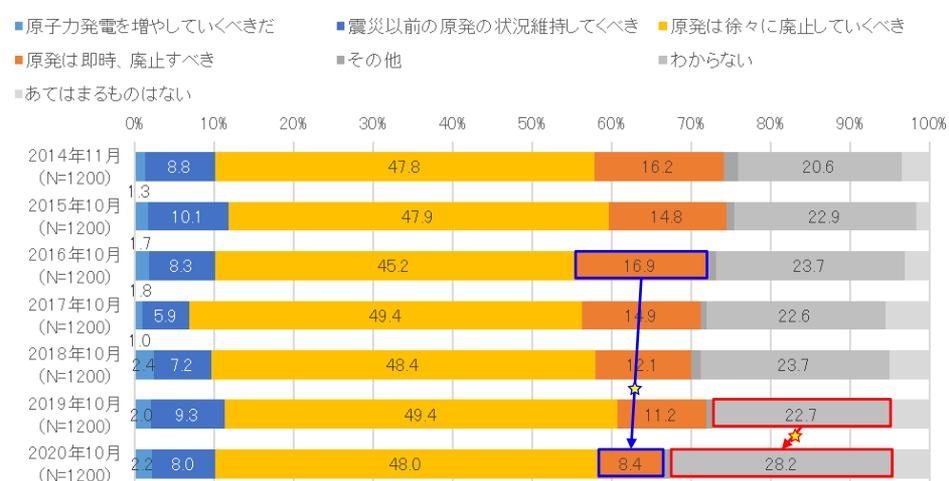
【年代による差】

➢ 10代：「わからない」のポイントが全体よりも高い (39.2%)

➢ 年代【高】：「わからない」のポイントが減少する傾向

「即時廃止」のポイントが増加する傾向

【2014~2020年度】



【経年変化】

➢ 2019年度→2020年度の変動

「わからない」の割合が増加

➢ 2016年度→2020年度の変動

「即時廃止」の割合が減少

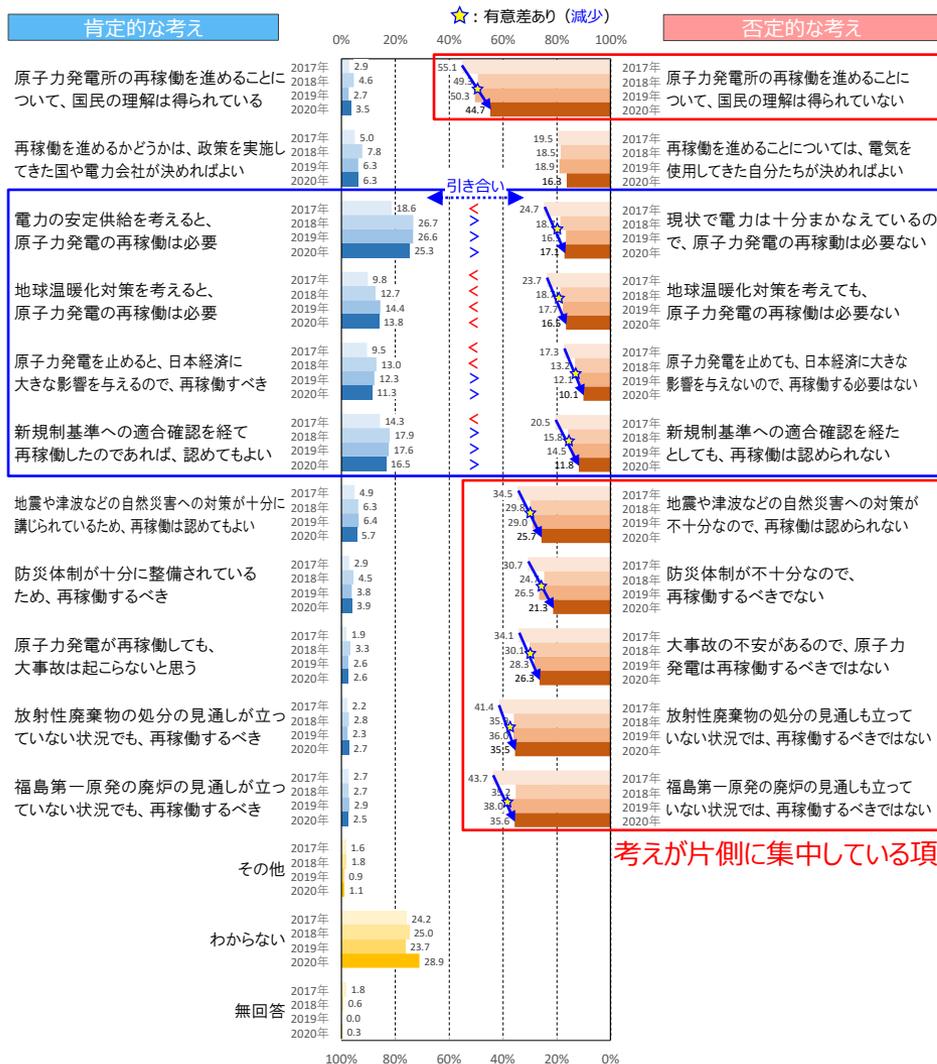
数値としても初めて一桁となり、「増加+維持」の割合を下回った

即時廃止 8.4% < 増加+維持 10.2%

直近の5年間で「即時廃止」の割合が減少

4-3. 原子力発電の再稼働に対する考え (2017~2020年度)

問9-1 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることになります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(○はいくつでも)



【2020年度】

➤ 考えが引き合いになっている項目 (青枠)

「電力安定供給」、「地球温暖化対策」、「日本経済への影響」、「新規制基準の適合」は肯定側と否定側の双方に意見がある

【性別による差】女性の方が肯定的な考えの割合が低い

「肯定：電力安定供給」：男性31.3% > 女性19.4%

「肯定：地球温暖化対策」：男性19.1% > 女性8.7%

「肯定：新規制基準の適合」：男性21.6% > 女性11.5%

【年代による差】60-70代は全体よりも否定的な考えの割合が高い

「否定：電力安定供給」：全体17.1% < 60-70代29.2%

「否定：地球温暖化対策」：全体16.5% < 60-70代26.6%

「否定：新規制基準の適合」：全体11.8% < 60-70代21.1%

【経年変化】

➤ 11項目のうち10項目は、2017→2020で 否定的な考えが減少

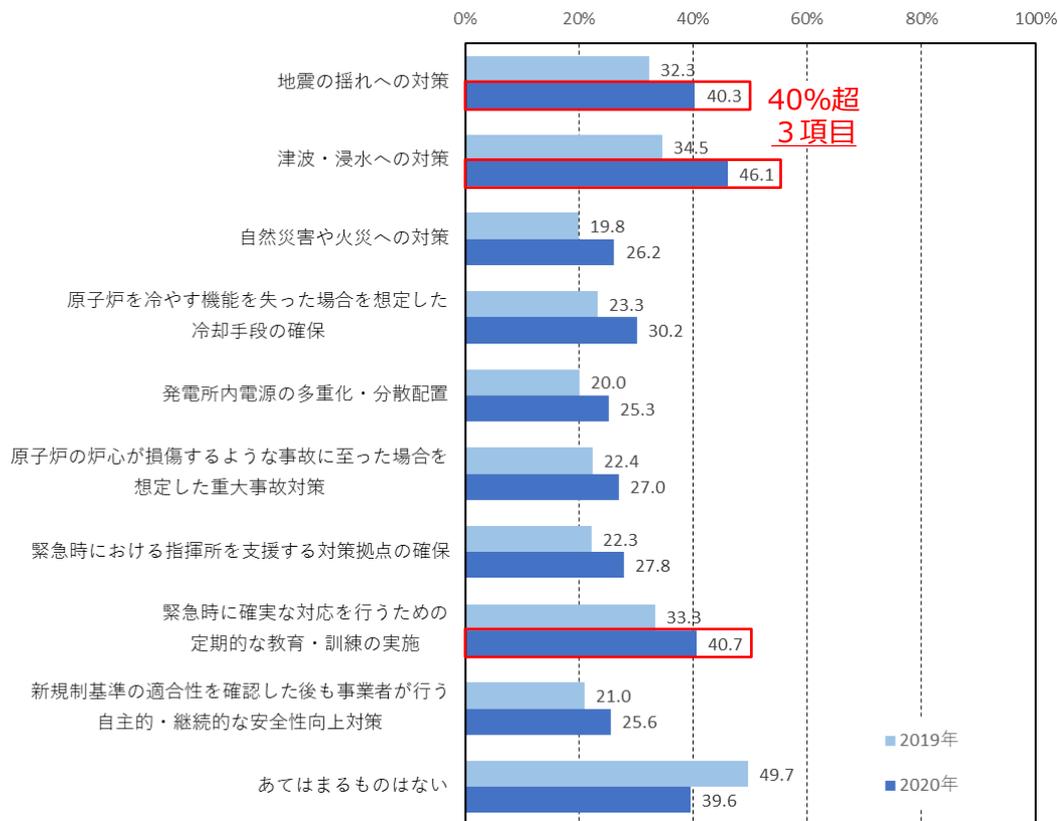
➤ 考えが引き合いになっている項目 (青枠)

「電力安定供給」、「新規制基準の適合」は、肯定と否定の割合が2017~2020の間で逆転し、肯定的な考えの割合の方が高くなった

考えが片側に集中している項目

4-4. 原子力発電所の安全対策に対する考え (2019～2020年度)

問9-3 「問9-2で選択した事柄」に限らず、以下の「安全対策の強化」のうち、あなたが「安全性向上に効果的だと思うもの」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



【2020年度】

安全性向上に効果的と思うものは、以下が高い回答率

津波・浸水への対策 (46.1%)

教育・訓練の実施 (40.7%)

地震の揺れへの対策 (40.3%)

	全体	年代			
		10代	20代 30代	40代 50代	60代 70代
全体(N)	1200	74	335	407	384
地震の揺れの対策	40.3	45.9	44.8	42.8	32.8
津波・浸水の対策	46.1	47.3	50.7	49.4	38.3
自然災害・火災の対策	26.2	24.3	32.5	29.0	18.0
冷却手段の確保	30.2	27.0	34.9	31.7	25.0
電源多重化・分散配置	25.3	20.3	29.6	26.3	21.4
重大事故対策	27.0	25.7	32.8	28.7	20.3
緊急時対策拠点	27.8	23.0	33.4	29.2	22.4
教育・訓練	40.7	39.2	44.5	42.5	35.7
安全性向上対策	25.6	21.6	32.2	26.5	19.5
あてはまるものはない	39.6	41.9	37.3	35.9	45.1

(%)

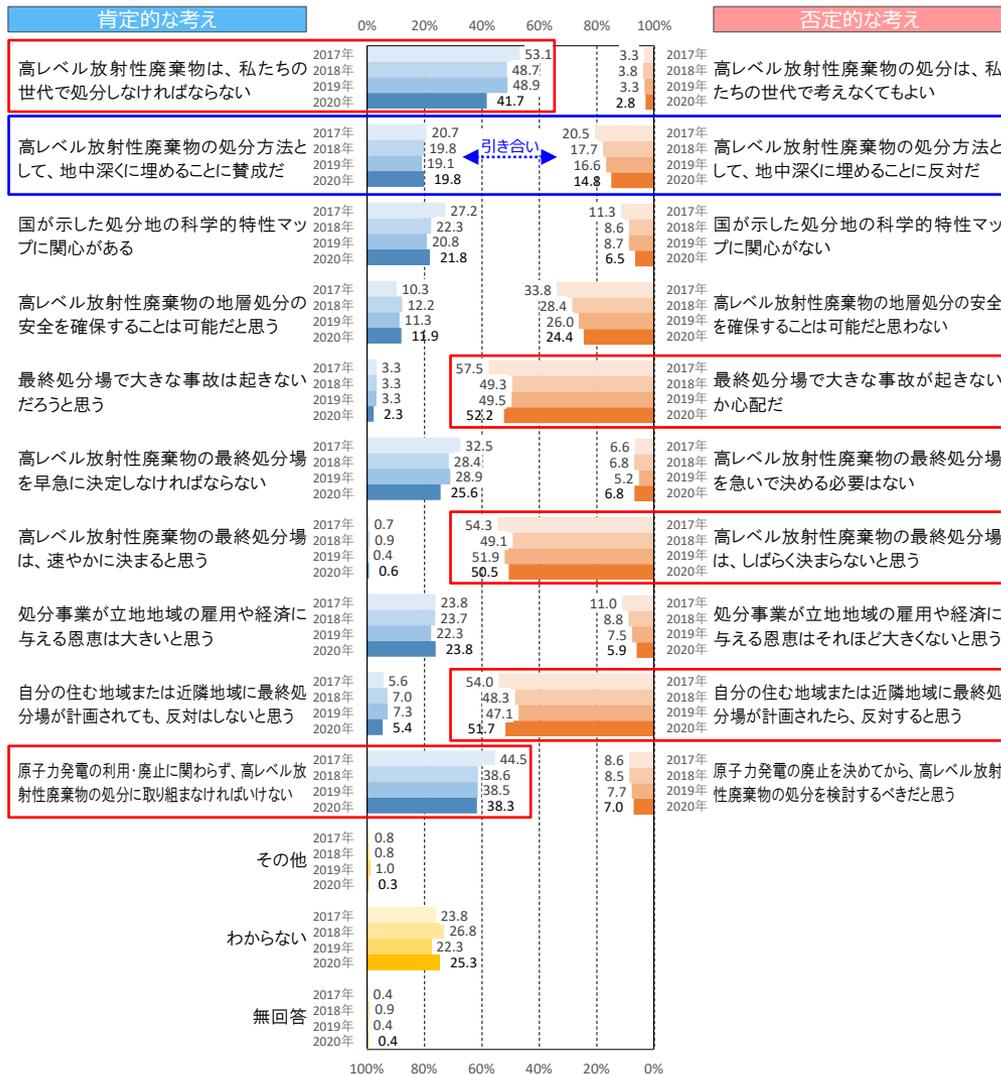
【年代による差】

- 20-30代が他の年代と比べて高い傾向 (多くの項目で5ポイント程度高い)
- 60-70代が他の年代と比べて低い傾向 (多くの項目で5ポイント程度低い)
- 20-30代と60-70代では、10ポイント以上の差が見られる

ハード面の対策だけでなく、ソフト面の対策も
安全性向上に効果的だと思う割合が高い

4-5. 高レベル放射性廃棄物の処分に対する考え (2017~2020年度)

問12 高レベル放射性廃棄物の処分について、あなたは、以下のような意見をどのように感じますか。あなたのご意見と近いものをお選びください。(○はいくつでも)



【2017~2020年度】

➤ 肯定・否定のどちらか片側に集中している項目 (赤枠)

高レベル放射性廃棄物の処分は、
取り組まなければならないと思う一方で、
大きな事故の不安があり、近隣への処分場立地には
否定的な意見を持っている

➤ 考えが引き合いになっている項目 (青枠)

地層処分が国際的に共通した最善の選択肢とされているが、
地中深くに埋めることに対して意見が引き合いになっている

【経年変化】

➤ 直近の4年間で大きな傾向の変化は見られない

【HLW情報保有量×考え】

➤ 情報保有量【高】(6つ以上聞いたことがある)は
 5項目が20ポイント以上高い(2019・2020ともに)

2020年度(カッコ内:全体)

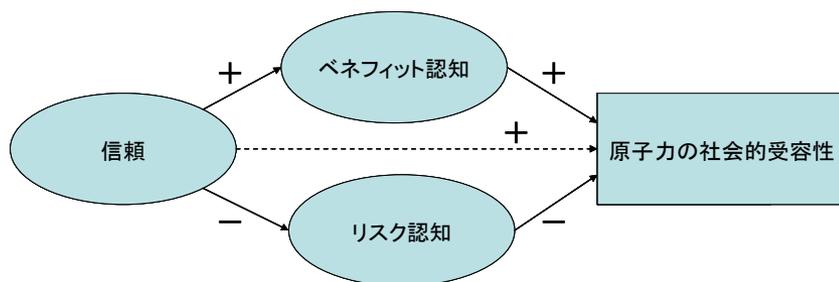
- ・地中深くに埋めることに賛成だ 47.4% (19.8%)
- ・処分地の科学的特性マップに関心あり 48.0% (21.8%)
- ・最終処分場を早急に決定せねばならぬ 51.3% (25.6%)
- ・廃棄物処分は取り組まねばならない 66.4% (38.3%)
- ・最終処分場はしばらく決まらぬと思う 78.3% (50.5%)

5. 原子力の社会的受容性

5-1. 原子力のベネフィット認知 (2014～2020年度)

5-2. 原子力のリスク認知 (2014～2020年度)

5-3. 信頼 (専門家・事業者・国・自治体 / 2018～2020年度)



図「原子力の社会的受容性に関して見られる共通的な心理モデル」

原子力の社会的受容性に関する意思決定に影響を与える普遍的な心理的要因は、「信頼」、「ベネフィット認知」、「リスク認知」であり、これらの心理的要因と社会的受容性は、以下のような関係性と考えられる。

- ・「信頼」と「ベネフィット認知」は、受容性を高めるように働く
- ・「リスク認知」は、受容性を下げるように働く

このようなことから、「信頼」、「ベネフィット認知」、「リスク認知」、に関する調査結果を整理する

5-1. 原子力のベネフィット認知 (2014~2020年度)

問10 あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

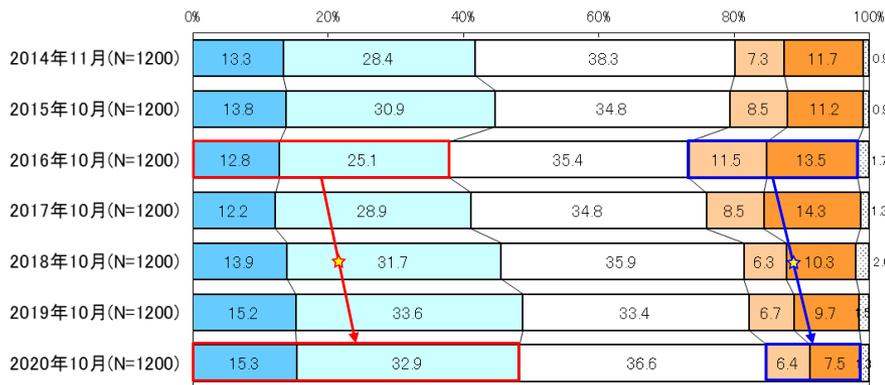
グラフの色

- ・青系 – 原子力に対して**プラス**意見
- ・赤系 – 原子力に対して**マイナス**意見

【原子力発電は役に立つ】

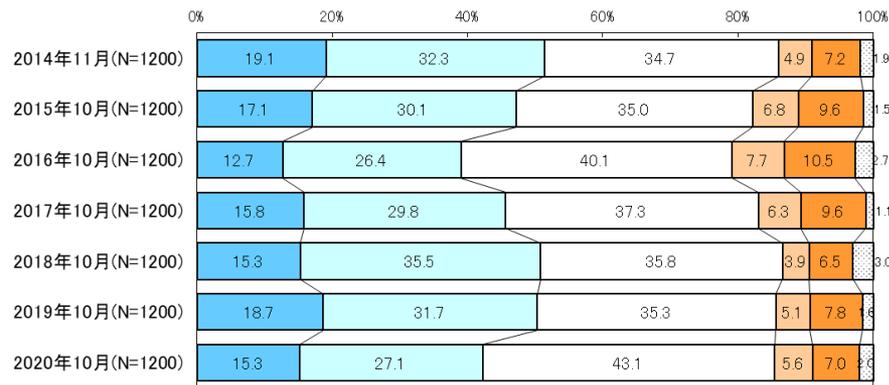
★: 有意差あり (増加)
☆: 有意差あり (減少)

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



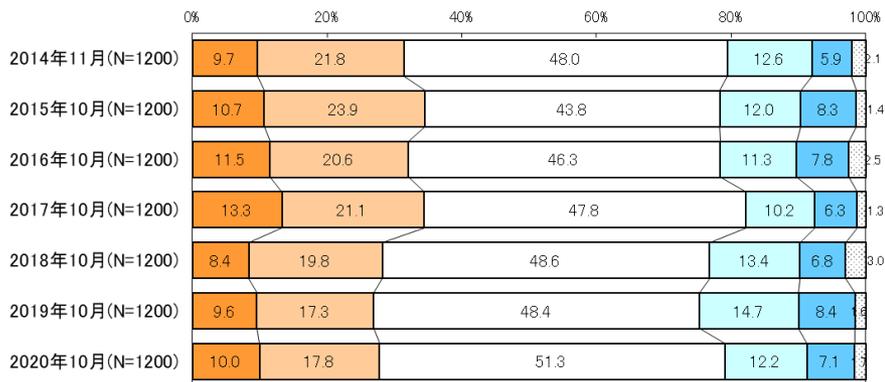
【原子力発電がないと、電気料金が上がる】

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



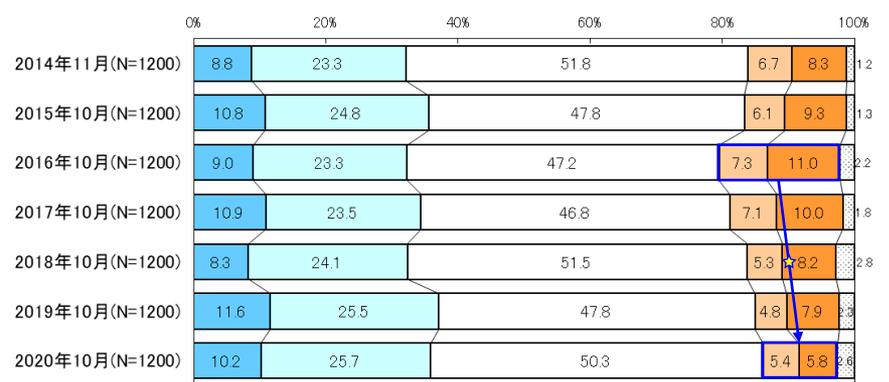
【原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



【原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないで、地球温暖化防止に有効である】

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



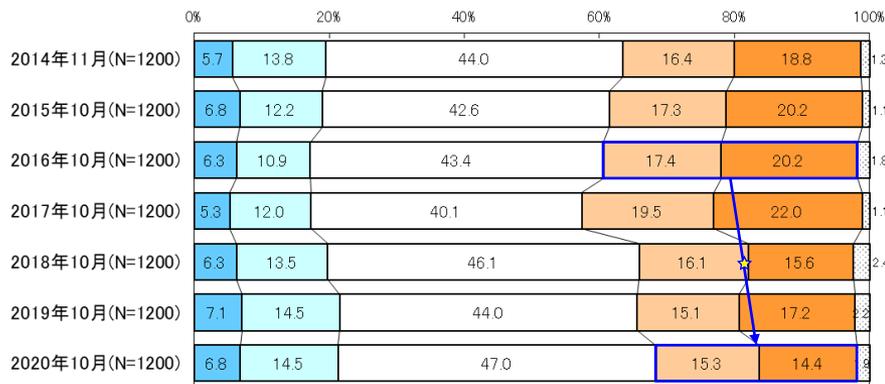
2016年度は、各地域の原子力発電所の再稼働にともない、人びとの意識が全体としてネガティブ側に振れている時期であるが、2020年度は、その時期と比べると、原子力に対するプラス意見が増え、マイナス意見が減っている項目があるため、やや前向きにとらえられるようになった

5-2. 原子力のリスク認知 (2014~2020年度)

問10 あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

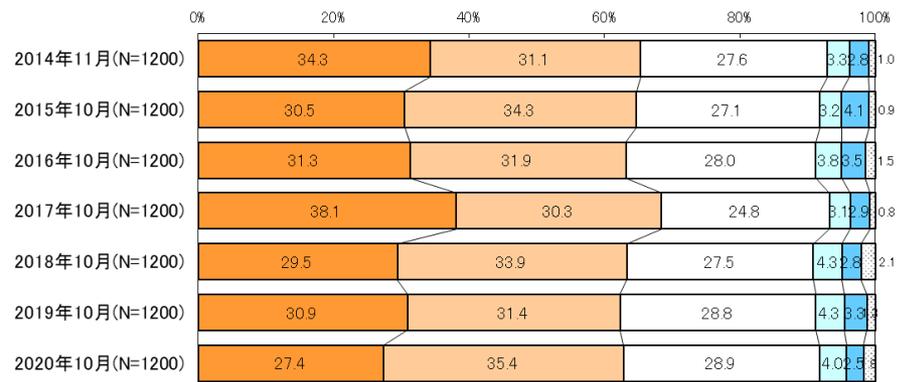


グラフの色

- ・青系 - 原子力に対して**プラス**意見
- ・赤系 - 原子力に対して**マイナス**意見

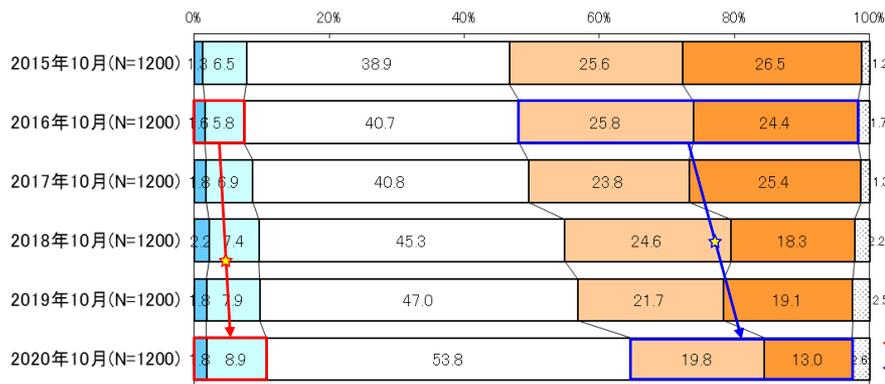
【わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



【原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



★: 有意差あり (増加)

☆: 有意差あり (減少)

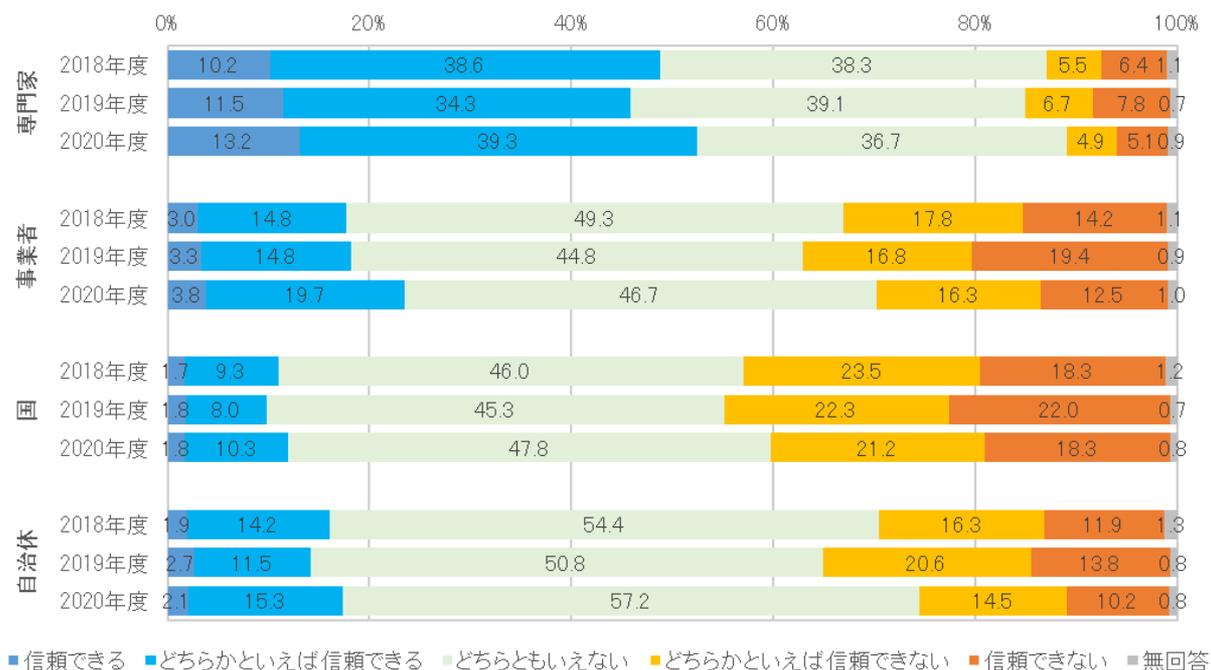
2016年度は、各地域の原子力発電所の再稼働にともない、人びとの意識が全体としてネガティブ側に振れている時期であるが、2020年度は、その時期と比べると、原子力に対するプラス意見が増え、マイナス意見が減っている項目があるため、やや前向きにとらえられるようになった

5-3. 信頼（専門家・事業者・国・自治体 / 2018～2020年度）

問13 今後、原子力発電を利用、もしくは、廃止していく上で、あなたは、次の人や組織を信頼できると思いますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

（選択肢）

- ・原子力の専門家（研究機関の研究者、大学教授などの原子力の学問・事柄を専門に研究・担当し、精通しているとされる方）
- ・原子力の事業者（原子力発電所の運転事業を営む電力会社など）
- ・国（政府など）
- ・自治体（都道府県・市町村）



【2017～2020年度】

- 原子力の専門家は、信頼回答が52.5%で【信頼回答が優位】
- 原子力事業者、国、自治体は、いずれも【不信回答が優位】 国がもっとも信頼されていない

6. 原子力やエネルギー、放射線に関する情報獲得

6-1. ふだんの情報源 (2020年度)

6-2. 情報発信者に対する信頼 (2020年度)

6-3. 情報提供の利用 (2020年度)

6-1. ふだんの情報源 (2020年度)

問14-1 ふだん原子力やエネルギー、放射線に関する「[情報を何によって得ていますか](#)」。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

【2020年度】※全年代で回答率が10%を超えるもの

	全体	テレビ (ニュース)	新聞	テレビ 情報番組	検索サイト上 のニュース	家族、友人、 知人との会話	スマートフォン ニュースアプリ	テレビ局や 新聞社等の ニュースサイト	自治体の 広報紙
全体	1,200 100.0	946 78.8	612 51.0	507 42.3	256 21.3	190 15.8	180 15.0	151 12.6	135 11.3
10代	74 100.0	49 66.2	15 20.3	27 36.5	17 23.0	12 16.2	13 17.6	6 8.1	2 2.7
20代	148 100.0	103 69.6	39 26.4	50 33.8	29 19.6	30 20.3	29 19.6	8 5.4	8 5.4
30代	187 100.0	136 72.7	52 27.8	73 39.0	48 25.7	21 11.2	32 17.1	23 12.3	22 11.8
40代	221 100.0	164 74.2	102 46.2	89 40.3	56 25.3	26 11.8	41 18.6	22 10.0	17 7.7
50代	186 100.0	165 88.7	115 61.8	86 46.2	51 27.4	25 13.4	28 15.1	29 15.6	19 10.2
60代	222 100.0	188 84.7	158 71.2	110 49.5	41 18.5	34 15.3	25 11.3	32 14.4	31 14.0
70代	162 100.0	141 87.0	131 80.9	72 44.4	14 8.6	42 25.9	12 7.4	31 19.1	36 22.2

- ▶ テレビ（ニュース）：年代を問わず、日頃の情報源として定着どの年代も情報源としている割合が6割超と高いが、10-20代と50-70代では20ポイント前後の差が見られ、テレビ（ニュース）についても、若者離れを起こしつつある
- ▶ 「家族、友人、知人との会話」
すべての年代で10%を超え、どの年代も情報源として利用されている

【年代による差】

- ▶ 10代
「LINE」、「学校」、「ツイッター」、「その他SNS」の回答率が高い
全体より10ポイント以上高い

- ▶ 50-70代
「テレビ（ニュース）」、「新聞」の回答率が高い
ここ数年で、年代が高い層もインターネット関連の回答が増加傾向
・50代：「検索サイト上のニュースサイト」がやや高い
・60代：「テレビ（情報番組）」がやや高い
・70代：「テレビ局や新聞社等のニュースサイト」がやや高い

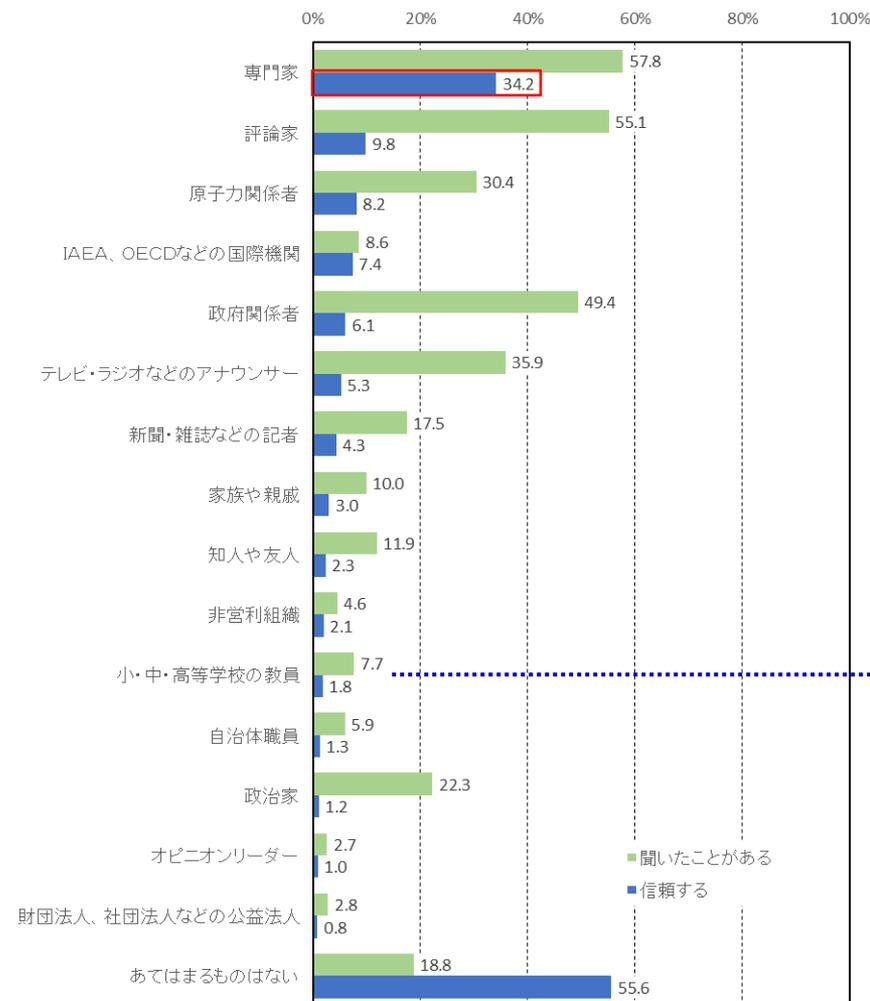
原子力やエネルギーに関する情報源は年代による差が顕著

	全体	ラジオ	雑誌	本 パンフレット	LINE	学校	ツイッター	その他 SNS	特にな い わからない
全体	1,200 100.0	117 9.8	88 7.3	88 7.3	78 6.5	63 5.3	54 4.5	21 1.8	120 10.0
10代	74 100.0	1 1.4	3 4.1	7 9.5	12 16.2	30 40.5	12 16.2	9 12.2	14 18.9
20代	148 100.0	10 6.8	6 4.1	12 8.1	22 14.9	17 11.5	24 16.2	2 1.4	22 14.9
30代	187 100.0	7 3.7	6 3.2	12 6.4	13 7.0	6 3.2	9 4.8	3 1.6	29 15.5
40代	221 100.0	17 7.7	9 4.1	9 4.1	13 5.9	5 2.3	5 2.3	2 0.9	26 11.8
50代	186 100.0	27 14.5	22 11.8	11 5.9	10 5.4	1 0.5	3 1.6	2 1.1	5 2.7
60代	222 100.0	31 14.0	26 11.7	19 8.6	4 1.8	4 1.8	0 -	1 0.5	18 8.1
70代	162 100.0	24 14.8	16 9.9	18 11.1	4 2.5	0 -	1 0.6	2 1.2	6 3.7

6-2. 情報発信者に対する信頼 (2020年度)

問15-1 原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を「聞いたことがありますか」。

問15-2 「問15-1で選択した事柄」に限らず、あなたは、原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を「信頼しますか」。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



【2020年度】

▶ 信頼できる情報発信者

もっとも回答率が高い項目：あてはまるものはない (55.6%)

信頼している情報発信者がいない割合が高いが、

選択された中では、**専門家 (34.2%)** がもっとも回答率が高い

「**専門家**」は、性別・年代を問わず、信頼されている割合が高い



**原子力等について専門家から
情報発信する取り組みが求められる**

▶ (10代の傾向)

サンプルサイズ (N=74) が小さいため、参考程度ではあるが、

10代では、聞いたことがある情報発信者として

「小・中・高等学校の教員」(44.6%) の割合が高い

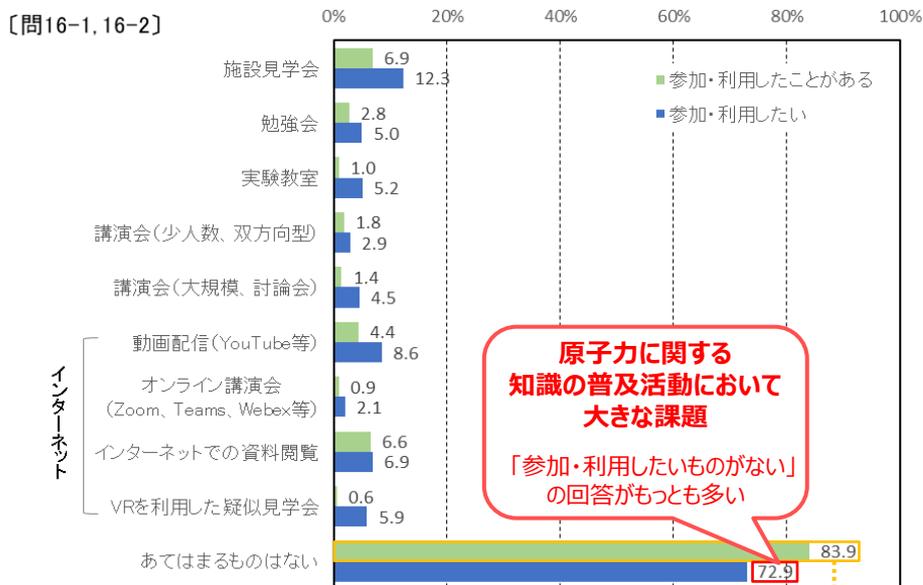
また、信頼できると回答した割合は全体よりも高い傾向

6-3. 情報提供の利用 (2020年度)

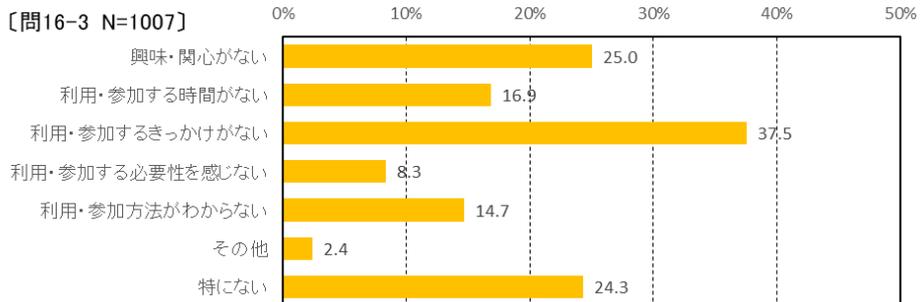
問16-1 原子力やエネルギー、放射線に関する情報提供（イベントなど）の中で、「これまで参加・利用したことがあるもの」はどれですか。（○はいくつでも）

問16-2 「問16-2で選択した事柄」に限らず、「今後、参加・利用したいと思うもの」はどれですか。（○はいくつでも）

問16-3 問16-1で「あてはまるものはない」と回答した理由は何ですか。（○はいくつでも）



参加・利用したことがない理由



【2020年度】

▶ 参加・利用したい情報提供

選択された中では、施設見学会（12.3%）が唯一10%超

もっとも回答が多い項目：あてはまるものはない（72.9%）

→これまでの傾向と変わらない。

この点は、原子力に関する知識の普及活動において大きな課題

▶ 参加・利用したことがない理由（参加・利用経験なし N=1007）

もっとも回答が多い項目：きっかけがない（37.5%）

興味・関心がない（25.0%）、特になし（24.3%）と続く

▶ 興味・関心の喚起を意識した情報提供とともに、

「きっかけがない」と「利用・参加方法がわからない」と

回答した層に対して、情報提供の“きっかけ”をつくること、

そして、“利用・参加情報”を届けることが重要となる。

【年代による差】

▶ きっかけがない：10代の割合が高い（46.6%）

▶ 利用・参加方法がわからない：60-70代の割合が高い（21.0%）